コンサルテーション事業報告

事業の名称	学習障害支援事業	事業代表者	川﨑 聡大
対象	学習面やコミュニケーション、発達に課題を抱える就学前児・小中学生		
目的	【目的】 言語、学習、コミュニケーションに関する相談援助を通じて地域に研究知見を還元するとともに、目の前の生活をことばやコミュニケーションといった観点から少しでも有意義にしていくための方策について当事者や保護者たちとともに検討を深める。		
実施日 実施回数	相談事例とその内容により概ね 1/W～1/2W（相談内容によって回数は異なる）実施概要に詳細を記載する		
実施場所	心理演習室(5F)		
主なスタッフ	川﨑聡大 川田　拓（東北大学大学院教育学研究科博士後期課程 川﨑研究室） 荻布優子（東北大学大学院教育学研究科博士後期課程 川﨑研究室）		
スタッフの活動内容および実施実績概要	主に発達・コミュニケーション・言語に関する発達心理学的アセスメントと支援を行う。対象は当該児童・保護者だけでなく、当該児童が在園する園や学校の保育士や教員への助言も含む。学齢期に対しては、特に発達障害児童に対する認知神経心理学的評価を実施し障害特性に応じた心理検査結果に基づく相談・助言、指導を行った（特に書字指導やコミュニケーション面、学業に関して）。 園・学校現場への支援：当該児童の保育園や小学校に出かけて直接コンサルテーションも行った（本年度保育園 1 件（3 回）、小学校 1 件（1 回））。 学生スタッフは教員指導の下、スタッフ以下の内容に関わった ① 知的障害を伴う言語障害児童に対する指導と保護者、教員支援 ② 読みや書きの指導に関する指導計画の立案と教材作成		

	③ 指導や検査の合間の対象児童へのかかわり ④ あらたな発達障害に関する心理アセスメントの開発 【実施概要】**＊個人が特定できる可能性があるため包括的に記載します** 本年度相談援助の合計回数はのべ 48 回（概ね月当たり 4 件程度、一人につき 2 回～20 回/人概ね週 1 回の頻度）であり、就学前が 3 件（相談 2、指導 1、検査 1）、就学後が 4 件、継続相談が 2 件であった。特に本年度は小学校で学習面に問題を持つ児童に関する相談や指導に関する相談が多く、次いで発話（発音や流暢性障害を含む）に関する問題となった。 **発達やコミュニケーション面に関する相談事例** ：相談依頼は例年同様、保護者からの直接依頼が多かったが今回、医療機関からも紹介（2 件）が増えた。 **読み書きの苦手さに関する相談** 本年度は特に学校からの相談（学校での対応や支援方法に関する助言）に対応することが多くなった。読み書き困難の事例に対して、その傾向を神経心理学的検査によって明らかにした上で、指導や学校での学習方法の提案、学校生活を送る上での対処方法等への助言指導を行った。